

開催地名	福岡県大野城市
開催日時	令和6年2月17日（土） 10:00 ～ 11:15
開催場所	南コミュニティセンター
語り部	武蔵野 美和 （岩手県陸前高田市）
参加者	大野城市防災士連絡協議会 62名
開催経緯	本市では、地域住民の防災・減災の意識向上を図るため、防災士養成講座を実施しており、資格取得者を対象に防災士連絡協議会を組織している。 しかし、防災訓練への参加率や活動している世代・性別の偏りなど様々な課題を抱えている。そのため、大規模災害を経験され、現在も防災士として地域に根差した活動をされている方から直接、お話を伺うことで課題解決のヒントを得られればと考え、講演会の開催に至った。
内容	（１）【東日本大震災の教訓】 ①陸前高田市の被害 ・マグニチュード9.0、震度6弱、立ってられないほどの長い揺れがあった。 ・犠牲者1750人 そのうち303人～411人が指定された場所（避難所等）で亡くなっている。 この「～」というのがポイントで、行方不明者の家族が行方不明者を死亡したと認めていないケースがあるため、正式な死亡者の人数ではない。 ハザードマップはあったが、平野部が故に津波が高く、甚大な被害となった。有名な奇跡の一本松は七万本のうちの一本であり、被害のすさまじさを物語っている。 捜索で遺体が発見されると見分が行われた。（瓦礫に揉まれてきれいな遺体は少なかった。）また川に上がった遺体は比較的きれいだった。（川は流木などの凶器が少ないから）遺体を運ぶ作業が大変であった。最低6人は人員が必要であり、10人以上で何時間もかけて安置所に運んだ。 ※北陸は元々災害が多い地域のため、これまでの教訓をいかして様々な災害対策をしていたが、想定外の被害が出た。 （２）陸前高田市の避難所運営 女性目線の避難所がもっとあればよかった。（性別や役職で役割（配置）を分けるのは良くない。）保育士や公民館長などが責任を感じて心の病になったケースがあった。 ・物資で多く余ったもの→水、ミルク 理由：ミルクを必要とする人は避難所には行ける状態にない人たちだったからである。

	この観点から避難所の備蓄を見直す必要がある。 また避難所でもミルクや母乳をあげられる環境を準備することが必要である。赤ちゃんも大事だけど、赤ちゃんを育てるお母さんも大事にしないといけない。女性目線での避難所の環境づくりが急務（避難所運営）である。 （３）【防災リーダーの役割・備え】 ①防災リーダーの役目 人の動きは大事である。伝えることから始めないといけないのに、いざというときの知識がないことが多い。 ②避難について 逃げることだけが避難ではない。家にいることも避難となる。備蓄があり、災害のリスクが低い場所であれば家も安全だということを近所と示し合っておくことで家に居ても避難が完了となる。 ③備え ・非常持ち出し袋は一次避難 防災セットは一般的なものを一式買って安心するのではなく、自分（家族）に合ったものをきちんと選ぶことが大事である。いつも持ち歩いているものが本当に必要なものと認識することが大切。 ・ポリ袋調理での炊き出し さばの味噌煮缶を野菜ジュースで炊くだけで簡単な炊き出しが可能となる。 ・171 アプリを活用 アプリを使えない人が多かった。安否確認は大事である。家の電話番号を登録しておくことを推奨する。  
開催地より	発災当時の避難所の状況や現在の陸前高田市における防災への取り組みなどを具体的に伺うことができた。本日の講演をふまえ、防災士として普段からどのように災害に備え、地域と関わっていくことが重要なのかを協議会、そして会員一人ひとりが考えていきたいと思う。